

PTA活動紹介



「今年の本部のスローガンは、『子どもたちが過ごせる 環境づくり』です。特に、夏の暑さ対策に力を入れて、子どもたちが過ごしやすい環境を整えていきたいと思っています。みなさん、ご協力よろしく願います！」

これは、今年度のPTA総会において、八木成弥PTA会長がその挨拶の中で述べられた一節です。昨年度の酷暑は、子どもたちにとって本当に過酷なものでした。気象庁の臨時記者会見では「命の危険があるような暑さ」と今まで聞いたこともないコメントが発表され、「災害級の暑さ」と警戒を呼び掛けるほどの暑さで

子どもたちのために
波方小PTA
温かくも熱い思い

あったことは記憶に新しいと思います。

今治市においては、今年度中に市内全小中学校にエアコンが設置されることになっていますが、子どもたちにとってより過ごしやすい環境を早く整えたいという会長の、温かくも熱い思いが、今回の事業の根本にあります。

元来、波方小PTAは、いえ、波方という地域は、「子どもたちのために……」という思いが強く、子どもたちのためなら、ひと肌でもふた肌でもぬいでやろうという方々ばかりです。そのような保護者・地域に支えられ、今回の事業を成し得ることができたと感じます。

実際の設置作業は、本部役員有志がそれぞれの休日・業務を返上して、六月一日(土)の早朝から始まりました。事前に窓枠の長さを測ったりシート素材を選定したりするなど、しっかりと準備していたものの、実際に取り掛かってみると、過去に校舎を増築していた関係等で微妙に窓枠の幅が違うなど、不測の事態に対応しながらの設置となりました。しかし、そこはさすが本校本部役員。すぐに要領を得、声を掛け合い協力しな

さらには、翌週六月八日(土)。この日は春季大運動会を翌日に控え、十五時からテント張りの準備を、十六時から一般保護者も参加してテント張りを行う日でした。そんな日にもかかわらず、残りの箇所を設置、更に前週に設置したものの手直しまで行ってくださり、普通教室と一部特別教室のシート設置が完成しました。

設置後、子どもたちや教職員が、歓声を上げたの言うまでもありません。また、「やっぱり、なんか涼しいよね」「まぶしくないけん、ええよね」という子どもたちの声も聞こえてきました。

実は、今回の事業も、初めからシート設置に決めていた訳ではなく、いろいろな方法を検討しながらの取組でした。最終的には、迅速な対応ができる、経費的にも対応が可能、エアコンが設置後も省エネに効果があるなど、などを考慮して、今回のような形となりました。

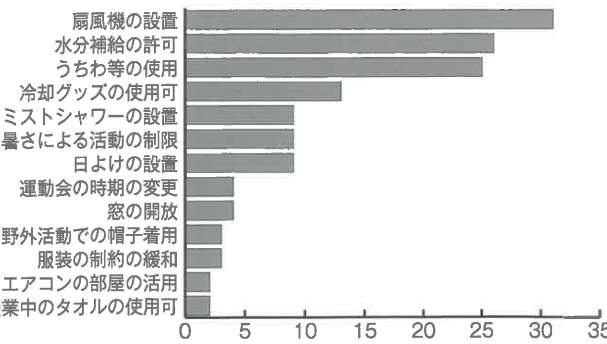
このように、子どもの学校生活のことを一番考えてくださり、実行に移していただけたことは、学校として本当にありがたいと感謝しております。一言付け加えるなら「昨年度来、本当に熱かったのは、本校PTA

がら、みるみるうちに作業は進んでいきました。お昼過ぎまでの作業でしたが、二階以上の普通教室は、ほとんど仕上げ



各学校の暑さ対策について

猛暑対策への取組状況アンケート集計



昨年度末、今治市PTA連合会では、市内小中学校の猛暑対策への取組状況のアンケートを実施いたしました。以下が、各学校での取組状況となります。

その他、製氷機の設置、温湿度計の設置、部活動の休養、屋外行事の中止等がありました。

内容	取組校数	内容	取組校数
扇風機の設置	31	運動会の時期の変更	4
水分補給の許可	26	窓の開放	4
うちわ等の使用	25	屋外活動での帽子着用	3
冷却グッズの使用可	13	服装の制約の緩和	3
ミストシャワーの設置	9	エアコンの部屋の活用	2
暑さによる活動の制限	9	授業中のタオルの使用可	2
日よけの設置	9		

(記事 宮窪小 村上嘉一)

輝くひとみ

第27号

令和元年7月12日発行
今治市PTA連合会
ホームページアドレス
<http://www.imabarity-pta.jp>



～大西中学校PTA活動～ 800個のおにぎりに 激励を込めて…



(記事 大西中 木本美智子)

大西中学校ではPTA活動として、毎年総体前に「炊き出し」の活動を行っています。

「炊き出し」とは、総体に向けて頑張っている子供達の為に、PTA本部役員が中心となり、PTA保護者で「おにぎり」を作り激励するというものです。

今年度も五月二十八日(火)に「炊き出し」を行いました。朝からPTA本部役員・PTA体育文化委員で、炊き込みご飯十八升、わかめごはん八升の計二十六升のごはんを炊き、その後、PTA本部役員と一年生の保

護者で、約八〇〇個のおにぎりを握りました。

授業終了後、子供達は部活単位でおにぎりを食べ、食べ終わった部活毎にPTA保護者の前に整列し、運動部のキャプテンからは、「今日は美味しいおにぎりをありがとうございます。総体では県大会出場を目指し、一杯戦ってきます！応援よろしくお祈りします！」と、おにぎりのお礼と総体に向けての力強い決意表明がありました。この後、保護者の方はおにぎりを試食し、子供達の練習風景を部活参観しています。

近年、こういったPTA活動は縮小傾向にありますが、子供達の勝利を願いおにぎりを握る保護者と、それを感謝し激励に励むという頑張る子供達の姿を見ると、この「炊き出し」は、大西中学校PTAの継続させたい貴重な活動となつていきます。

会長・各部長あいさつ

家庭教育研修部



部長 八木 正史
(吹揚小学校)

家庭教育研修部は、家庭教育PTAカレンダー、家庭教育推進事業、会長会、研修会支援等の単位PTAの研修要望に応じた事業を実行できるような部の活動を目指したいと考えます。至らぬ点は多々あるとは思いますが、部員一同力を合わせて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

P-T-A活動支援部



部長 眞鍋 達紀
(桜井小学校)

PTA活動支援部は、子どもたちの安全を確保するための青パト活動の推進、各学校でのPTA活動の参考にしてもらえるように情報交換会の開催など、健全育成活動に取り組んでいます。1年間よろしくお願いいたします。

総務部



部長 村上 眞由
(立花中学校)

総務部は、総会、球技大会、PTA研修会、研究大会などの運営を担当しています。さまざまな運営を役員、部員、事務局と協議しながらスムーズにすすめていきたいと思っています。1年間よろしくお願いいたします。

広報公聴部



部長 竹田 美和
(桜井中学校)

広報公聴部は、ホームページ、フェイスブックにて球技大会、各研修会、情報交換会などの情報を発信しています。広報紙「輝くひとみ」も年2回発行しています。また、広報研修会を開催し、皆様の広報紙作成のご支援をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

連合会長



会長 織田 真吾
(別宮小学校)

新元号を迎えましたが、「平成生まれの今治の子どもたちはすごい！」と言われるよう、まずは我々育てる立場が輝けるようなPTAを目指しましょう！令和最初の仲間とともに、一つ一つ心を込めてつとめます。まずは自分が喜んで、あふれる喜びを子どもたちに！よろしくお願いいたします。

編集後記

みなさまのご協力のもと「輝くひとみ27号」を無事発行できましたことを、この場をお借りしてお礼申し上げます。さて、今回の「輝くひとみ」は、いかがでしたでしょうか？今までは、違った紙面になっていると思います。行事報告はすべてホームページにてお知らせしております。また、リアルタイムな情報をフェイスブックにてお届けしております。併せてご覧になってください。今後も新生「輝くひとみ」をよろしくお願いいたします。

日本弱視斜視学会総会と日本小児眼科学会総会の合同学会が、短期間に片方の目の瞳が内側に寄って左右の視線がずれる「急性内斜視」について、「子どもや若者の間でスマートフォンなどの過剰使用が影響している可能性がある。」と発表しました。では、「急性内斜視」になるとどのようなことが起こるのでしょうか。

自転車に乗ると対向車が二重に見える

2年前に内斜視と診断された男子高生は、1日5～7時間スマホゲームをしていたそうです。やがて目に違和感を覚え、教室の時計や先生の板書が二重に見えるようになり、片目で授業を受けなければならなかったということです。また、自転車に乗ると対向車が二重に見えるのだそうです。

「母親がダブって見えるから」と目を合わせない

1日に10時間以上スマホを使っていた別の男子高生は、目を合わせなくなったのを不審に思った母親が理由を聞くと、「ダブって見えるから」と答えたそうです。

◆ 実際、みなさんはどのくらいの時間インターネットを利用しているのでしょうか？

問 あなたが1日にインターネットを利用する時間はどのくらいですか？

○30年度の割合(%) <今治市教育委員会調査(平成30年12月)結果より>

	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
0～30分	30.6	24.6	24.4	31.6	35.8	43.4
30～1時間	29.2	27.5	25.1	23.1	20.4	21.7
1時間～2時間	20.1	23.5	25.2	23.1	20.2	17.4
2時間～3時間	8.8	10.1	10.4	11.1	11.8	8.4
3時間以上	11.2	14.3	14.9	11.2	11.8	9.0

1時間以内の利用が半数とはいえ、3時間以上利用している子どもも1割はいます。今一度、ご家庭で親子で話し合い、お互いが納得のいくルールが作れるといいですね。また、家庭でのルールだけでなく、友達同士でのルールづくりなども勧めてみてはいかがでしょうか。

流行のアプリ等を
追いかけるより

スマホの使い方や心理・感覚などに目を向けてみましょう

子ども達に見られる現状や傾向に、どれくらい気づいていますか？

- テレビを見る時間より、ネットを使用している時間のほうが長くなっている
- テレビ番組を「テレビ」ではなく「スマホ」で視聴する傾向がみられる
- 定期考査や受験のための勉強に、スマホやタブレットを活用している
- 「スマホばかり」「スマホやめなさい」等の言葉に、ストレスを感じている
- 行動・言動・考え方等に、ネットから得た情報の影響を受けやすい
- 都合のいい情報をお好み、都合の悪い情報を排除・無視する傾向がある
- 欲しいモノ・やりたいコトの情報に囲まれ、小遣いが足りないと感じている
- ネット上で金銭やポイントを使う・受け取る・貯めることに違和感がない
- 写真や動画を共有することも、友達とのコミュニケーションになっている
- 同世代の子の SNS を見て、コンプレックスを感じてしまうことがある
- 1つの SNS に複数のアカウントを持ち、上手に使い分けをしている
- 同じ趣味や共通の話題で共感しあえる人を信用する傾向がある

みなさん自身が既に気づいていたことは、いくつくらいありましたか？「言われてみれば、なるほどと思った」という項目もあると思います。もちろん、年齢差や個人差もあるため、全ての子供に当てはまるわけではありませんが、特に仲間とのコミュニケーションが欠かせない中高生の場合、友達同士影響し合うことも多いため、似たような傾向が現れる可能性も高いと考えられます。

スマホは勉強や学習補助にも使われます、思い込みで叱らないで！

インターネットが当たり前にある時代に生まれて育った世代は、ネットを活用する術をいろいろ心得ています。勉強や試験対策に SNS や動画サービスを利用する子も増えており、「スマホを操作している」イコール「遊んでいる」と決めつけられ叱られると、腹が立つ・イライラするといった声も聞こえてきます。また、ゲームで遊んでいることと、友人とのメッセージ交換を同じように扱うのもダメ。「いつまで遊んでいるの？」と「いつまで長話しているの？」との違いに気づけば、声のかけ方も違ってくるのではないのでしょうか。

ニュースもスマホで読む時代、新聞を読んでいるなら OK なのに、スマホはダメ——そんな態度が続けば、子供の心が離れていってしまうかも。気になるときは興味を持って尋ね、子供の使い方の把握に努めましょう。ネット関連の話題で会話をするのも、使い方を知るための有効な手段です。

子供に使い方を注意するのなら大人たちもちゃんと使ってほしい！

「子供にダメだと言っているクセに、大人はやっている」という苦言は、数多くの小中高生から聞こえてきます。歩きスマホや食事時の操作、休みの日にはゲーム三昧という大人を見ていれば、「自分だってやっているのに、ズルい！」と反発されても仕方ありません。自宅の中や子供の前はもちろんですが、家の外でも節度ある使い方を心がけましょう。大人は、子供の模範となる行動を！！



ワンポイントアドバイス 子供の利用状況を観察し、ときには長時間利用による身体への影響を話し合ってみるなど、家族みんなで正しい使い方を工夫しましょう！

●調査人数(人) <平成30年度>

小学生		
4年生	5年生	6年生
1,257	1,245	1,254
中学生		
1年生	2年生	3年生
1,061	1,065	1,179

今治っ子スマホ事情

親子で考えてみるスマホのルール



最近では、携帯電話の大手キャリアの学生割引・格安SIMの登場で小中学生にもスマートフォンを持たせやすくなりました。また固定電話を持たない家庭や共働きの家庭も増えてきて、子どもとの連絡手段としてスマートフォンを持たせている家庭もあるようです。それでは、今治市の小中学生のスマートフォン所持率はどうなっているのでしょうか？

問 あなたは、自分専用の携帯電話またはスマートフォンを持っていますか？

○「持っている」と答えた割合(%) <今治市教育委員会調査(平成30年12月)結果より>

	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
28年度	39.9	42.5	41.9	56.5	57.0	61.8
29年度	45.2	47.3	49.7	56.2	64.1	62.0
30年度	50.1	48.9	51.9	65.8	64.8	71.8

小学生でも約半数。中学生になると半数以上の子どもたちが所持しています。携帯やスマートフォン以外のインターネットが利用できる機器においてはどうか？

問 あなたは、携帯やスマホを除くインターネットが利用できる自分専用の機器を持っていますか？

○「持っている」と答えた割合(%) <今治市教育委員会調査(平成30年12月)結果より>

	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
28年度	86.1	87.6	91.3	89.4	85.9	81.3
29年度	88.3	91.6	91.6	89.7	87.9	81.9
30年度	87.7	88.7	92.7	88.3	85.4	82.8

驚くことに、ほとんどの子どもたちが「何らかの機器により、コミュニケーション手段として、SNSやインターネットを利用している。」ということになります。

◆ そこで、スマホ等でインターネットの使用によって起こる日常生活や健康面での支障について、考えてみましょう。

問 パソコン等の機器や携帯電話、スマートフォンでのインターネットの使用によって、睡眠時間や学習時間が減ったと思いますか？

○30年度の割合(%) <今治市教育委員会調査(平成30年12月)結果より>

	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
睡眠時間が減った	11.1	14.0	15.7	16.4	19.1	25.0
学習時間が減った	7.5	8.2	7.7	12.1	12.1	10.3
睡眠・学習時間がともに減った	5.4	8.8	7.2	17.3	19.9	23.2
変わらない	78.0	71.7	70.7	59.7	56.4	54.4

ここで注目すべき点は中学生の数字です。半数の子どもたちが「何らかの時間が減った。」と回答しています。なぜ、こんな風になってしまうのか事例で見えていきましょう。

スマホの過度な使用による日常生活への支障

友人とのトークが連日深夜まで続き



寝る時間だけど、あと少しだけ。

メッセージアプリを友人とのやりとり(トーク)をするのが好きなAさん。話を終わらせるタイミングがわからず、夜遅くまでスマホを使う毎日でした。

遅刻や居眠りをするようになってしまった



朝起きるのがつらくなり、眠たくて授業にも集中できなくなりました。体調や成績にも影響が出ているのですが、友人とのトークはやめられません。

生活のリズムが崩れてしまってますね。これでは、頭痛や視力低下、肩こりなど体調にも影響が出てきそうです。また、最近問題になってきているのが、スマホによる「急性内斜視」です。